

# OSPD サーバ UCS 240M4 の置換- vEPC

## 目次

[はじめに](#)

[背景説明](#)

[省略形](#)

[Mop の作業の流れ](#)

[前提条件](#)

[ステータスチェック](#)

[バックアップ](#)

[新しい OSPD ノードをインストールして下さい](#)

[UCS サーバインストール](#)

[Red Hat インストール](#)

[Red Hat ISO イメージをマウントして下さい](#)

[Red Hat Enterprise Linux をインストールして下さい](#)

[Undercloud を復元する](#)

[バックアップに基づいて undercloud インストールを準備して下さい](#)

[Red Hat 登録を完了して下さい](#)

[Undercloud リストア](#)

[曇に復元する Undercloud を再接続して下さい](#)

[完了された復元を検証して下さい](#)

[識別 サービス \(台形\) オペレーションをチェックして下さい](#)

[未来のノード内省のためのイメージをアップロードして下さい](#)

[困うことを再起動して下さい](#)

[関連情報](#)

## 概要

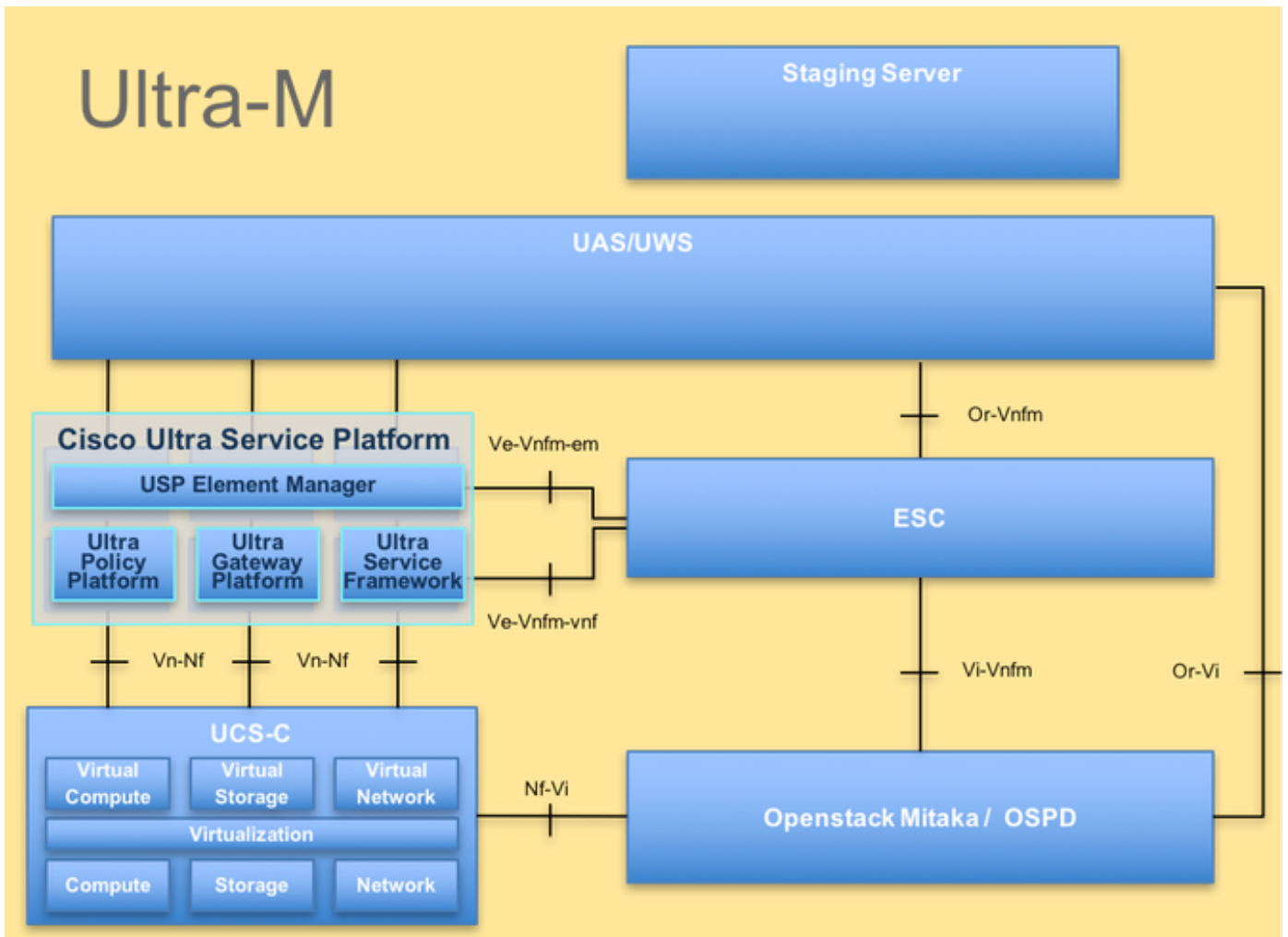
この資料が不良なサーバを取り替えるために必要なステップを記述したものです Ultra-M セットアップの OpenStack プラットフォーム ディレクター (OSPD) をホストする。

## 背景説明

Ultra-M は事前包装され、検証された仮想化されたモバイル パケット コア ソリューションです VNFs の配備を簡素化するために設計されている。 OpenStack は Ultra-M のための Virtualized Infrastructure Manager (VIM) で、これらのノードタイプで構成されています:

- 計算
- オブジェクト ストレージ ディスク-計算 (OSD-計算)
- コントローラ
- OSPD

Ultra-M の高レベル アーキテクチャおよび含まれるコンポーネントはこのイメージで描写されません:



## UltraM

この資料は Cisco Ultra-M プラットフォームについて詳しく知っている OSPD サーバ 置換の時に 水平な OpenStack で遂行されるために必要となるステップを詳述します Cisco社員のために意図 され。

注: 超 M 5.1.x リリースはこの資料の手順を定義するために考慮されます。

## 省略形

VNF	バーチャルネットワーク 機能
CF	制御機能
SF	サービス 機能
ESC	伸縮性があるサービス コン トローラ
MOP	プロセスの方式
OSD	オブジェクト ストレージ デ ィスク
HDD	ハードディスク ドライブ
SSD	ソリッドステート ドライブ
VIM	仮想 な インフラストラクチャ マネージャ
VM	仮想マシン
EM	Element Manager

UAS Ultra Automation Services  
UUID ユニバーサル固有の識別番号

## Mop の作業の流れ

